講義科目名称：　福祉倫理特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
鈴木　利定			
添付ファイル			

学修目標	倫理は人の生活に深くかかわる。昔の先賢は誠をして天の条理に位置づけ、人の目標とさせている。宋・明の学者は哲学の領域・理気説に昇化せしめている。 要するに社会に生きるには技術、知識、人格を支えるに誠(良知)が根元であることを知らしめているのである。本講義はそのことに気づかせ、仕事を通して吾が身体の力行を重んずる人を育てることを主眼とする。
講義の内容（基本的枠組）	対象者への人間尊重、人間尊厳は社会福祉に携わる人の目標である。それには我が身心を律することが先務である。而して余姚学は心の本体・身体の力行を説いて、簡にして細微である。戦後60年の今日、善悪の行為を判断もつけられない人が溢れかかっているようである。憂慮に堪えない。社会福祉及び看護にかかわる人はそのようなことであってはならない。私は多年の研究論文、著書、講演等の要旨をもとに身心の錬成、人格涵養の大切なことを受講生に講じてゆくものである。
授業計画	第１回　オリエンテーション 講義内容の説明 第２回　当校、伝統の建学精神 当校の礎と学統 第３回　当校、伝統の建学精神 提言字の解義 第４回　当校、伝統の建学精神 現代的意義 第５回　当校の教育理念 理気説の提言(1) 第６回　当校の教育理念 理気一元説の導入(2) 第７回　当校の教育理念 提言字の本義 第８回　当校の教育理念 現代的意義 第９回　儒教倫理 特色 第１０回　儒教倫理(1) 特性(1) 第１１回　儒教倫理(2) 特性(2) 第１２回　家庭生活と倫理の発現 倫理思想の体認 第１３回　家庭生活と倫理の発現 倫理思想の体認 第１４回　社会生活と倫理の発現 同上及び建学精神、教育理念の体認 第１５回　職業と人生(就業規則と職業倫理を含む) 当校、諸学部諸学科の顕彰
受講生への要望	仕事を含んで日常の生活に深くかかわるものが倫理である。時代への新しき創造、真知について深く学び、体認して頂くことを受講生の皆様へ要望するものであります。
評価方法	授業でのコメントは20点、期末筆答試験は40点、レポートは40点、総合点100点満点となります。
テキスト・参考書	【テキスト】　咸有一徳・・・昌賢学園の全人教育　鈴木利定・中田勝　著 【参考書】　随時指示

講義科目名称：　社会福祉原理特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
笹澤　武			
添付ファイル			

学修目標	社会福祉学の基底としての人間形成、完成の条件を学び、社会福祉の理念を理解したい。 同時に自らの研究計画とも関連させつつ学修して行く。
講義の内容（基本的枠組）	社会福祉の用語についての変遷は、その本質的な意味との関係があること、つまり、社会、経済との関連がある点であることを知り、幅広く国民生活に関わる形で理解を進めて行く。
授業計画	第１回　授業計画、参考文献、資料収集 第２回　社会福祉の用語変遷(福祉概念の発展) 第３回　社会福祉の基本前提(生物、文化社会的面) 第４回　社会福祉の基本前提(人間存在としての生など) 第５回　社会福祉の基本前提(現代社会福祉理念の諸問題) 第６回　社会福祉の基本前提(個の確立) 第７回　社会福祉の基本前提(国家福祉の理念) 第８回　社会福祉の基本前提(人間的理念:人権、個人の尊厳、生命の尊厳) 第９回　社会福祉の基本前提(人間的理念:平等の理念、自由の理念、自立の理念) 第１０回　社会福祉の基本前提(愛他理念:理念と展開) 第１１回　社会保障、社会福祉の理念をさぐる 第１２回　20、21世紀の福祉理念 第１３回　わが国の憲法の示す福祉理念 第１４回　行政の示す社会福祉 第１５回　講義のふりかえり
受講生への要望	文献を読み意見を述べ合って、学聞を自らのものにして欲しい。
評価方法	発表(30%)・レポート提出(70%) で総合的に評価する。
テキスト・参考書	【参考文献】 「社会福祉の発見」あいり出版 「生命倫理」弘文堂 その他

講義科目名称：　社会福祉理論・学説史研究　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
笹澤　武			
添付ファイル			

学修目標	わが国の社会福祉の理論と人間らしく生きることと対比して考究したい。
講義の内容（基本的枠組）	絆の言葉が使われている昨今を別の角度から肯定的、批判的に考えてゆくため、若干の学説も取り上げる。 その考え方の背景に人間らしく生きるための思想(考え方)や実践を取り上げてみる。
授業計画	第１回　授業のためのオリエンテーション 第２回　社会福祉の基礎理論 第３回　日本における社会福祉の歴史的展開 第４回　欧米における社会福祉の歴史的展開 第５回　社会福祉の援助対象と福祉ニーズ 第６回　社会福祉援助の方法と過程や組織運営 第７回　公共にとっての社会福祉学とは 第８回　社会福祉の担い手と専門職制度 第９回　戦前・戦後社会福祉の展開と主な福祉改革(1) 第１０回　戦前・戦後社会福祉の展開と主な福祉改革(2) 第１１回　社会福祉の国際的動向 第１２回　司社会福祉とグローパリゼーション 第１３回　社会福祉の供給体制 第１４回　21世紀社会福祉の展望 第１５回　講義のふりかえり
受講生への要望	文献を読み意見を述べ合って、学聞を自らのものにして欲しい。
評価方法	発表(30%)・レポート提出(70%)　で総合的に評価する。
テキスト・参考書	【参考書】 国代国次郎「社会福祉学とは何か」本の泉社 杉本一義「人生福祉」駿河台出版社

講義科目名称：　社会福祉経営特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
松原　直樹			
添付ファイル			

学修目標	１．社会福祉の組織の経営に関する基礎知識を理解し、またその特殊性を理解する。 ２．社会福祉サービスを提供するための財源と社会福祉サービス組織の財務管理を理解する。 ３．社会福祉サービス組織の経営において必要な人事・労務・安全等に関する管理を理解する。 ４．社会福祉サービス管理・改善等の実践を理解し、所属組織のサービス管理方法の改善課題を把握する。
講義の内容（基本的枠組）	社会福祉サービスには、近年、多様なサービス提供主体が参入してきている。その中心となる社会福祉法人は、高い公益性を備えながらも、「経営基盤の強化」「その提供する福祉サービスの質の向上」及び「事業経営の透明性の確保」が法的に求められている。本講座では、まず社会福祉経営・管理の考え方、基礎理論及び沿革を取り上げ、また社会福祉事業に関する行財政制度について取り上げ、特に社会福祉法人制度について、検討を行う。その上で、福祉サービスの経営管理方法として、サービス管理、人事管理・労務管理、財務管理、安全管理、情報管理、危機管理等について、具体的に検討する。そうした学修により組織の意思決定や経営について深く理解した上で、サービス管理業務の課題を発見する。
授業計画	第１回　オリエンテーション、社会福祉と経営 本講義の位置づけと全体像について、理解する。社会福祉と経営に関して、社会福祉経営の特徴について、概観した後、「福祉経営論」という学問領域について、概要を理解する。さらに、社会福祉経営論の学修範囲について、理解する。 第２回　福祉サービスの経営主体 福祉サービスの提供主体に関する最新の統計により、現状を理解する。その上で、福祉サービスの具体的な提供主体である、国・地方公共団体、社会福祉法人、医療法人、社団・財団法人、協同組合、営利法人および特定非営利活動法人(NPO)について、その概要と福祉サービスにおける役割を理解する。 第３回　社会福祉経営・管理の基礎理論①組織、管理(1) 現代社会における組織に関する基本的知識・理論を理解する。また、社会福祉サービスに関する組織についての理論を理解する。その上で、現代における社会福祉組織の課題を検討する。次に、現代社会における組織の管理・運営に関する基本的知識を理解する。 第４回　社会福祉経営・管理の基礎理論②管理(2)、集団力学・リーダーシップ テーラー、ファヨールに代表される経営管理論について、その概要を理解する。その上で、社会福祉組織の管理について、課題を検討する。次に、集団に働く力に関する基礎理論を理解する。さらに、集団を導くリーダーシップに関する基礎理論を理解する。 第５回　社会福祉サービスに関する行財政制度 社会福祉サービスに係る行政のしくみとして、国及び地方自治体の具体的な行政組織について理解する。また、社会福祉サービスに関する財政制度について、社会保障財政、国家予算、地方予算、および一般会計・特別会計等の具体的仕組みを理解する。 第６回　社会福祉経営と介護保険制度 介護保険制度の概要及び近年の介護保険制度改革について理解する。その上で、さまざまな社会福祉サービスの主体における介護保険との関わりについて、業務内容および経営面から理解する。 第７回　社会福祉サービスの人事・労務管理 福祉サービスにおける人事管理について理解する。具体的には、人事管理の方法として、採用、ジョブローテーション、人事考課、能力開発、メンタルヘルス・マネジメント等について、理解する。次に、福祉サービスにおける労務管理について理解する。具体的には、労務管理の内容、労務管理の優先順位および労務管理において遵守すべき法令について理解する。 第８回　社会福祉サービスの管理【研修①】 社会福祉サービスの管理に関するこれまでの学習内容を再度確認した上で、サービス管理において、理解しておく必要のある、これまで学習していない事がらについて、概要を理解する。 第９回　社会福祉サービスと法人【研修②】 第2回で学修した社会福祉サービスの主体の組織について、社会福祉法人を中心に、法人の形態、設立と組織体制について具体的に理解する。 第１０回　会議運営（演習）【研修③】 会議運営について基本的事項を理解した上で、配布する会議マネジメントのチェックリストに基づいて、具体的な組織における会議マネジメントの課題をグループで討議する。 第１１回　福祉サービスの評価・管理（演習）【研修④】 福祉サービスの評価・管理に関する基本的事項を理解した上で、配布するサービス評価・管理のチェックリストに基づいて、具体的な組織におけるサービスの課題をグループで討議する。 第１２回　福祉サービス第三者評価（講義）【研修⑤】 「福祉サービスにおける第三者評価事業に関する報告書」や「福祉サービスの第三者評価事業に関する指針について」に沿って、福祉サービス第三者評価の流れを理解し、また福祉サービスの第三者評価基準について理解する。 第１３回　福祉サービスの苦情解決の方法（演習）【研修⑥】

	リスクマネジメントとその取組について、「福祉サービスにおける危機管理(リスクマネジメント)に関する取り組み指針」に沿って理解し、さらに苦情受付業務の流れを理解する。その後具体的なリスクマネジメントガイドラインを題材として、理解する。 第１４回　緊急介入事案への対処方法（１）（演習）【研修⑦】 社会福祉サービスの財務管理の概要及び社会福祉法人の会計基準についての概要を理解した後、事例を使って財務分析を行う。さらに、モラールサーベイ・チェックについて、事例に基づいて理解する。 第１５回　緊急介入事案への対処方法（２）（演習）【研修⑧】 社会福祉サービスの主体の経営に関する現状を分析するため、SWOT分析について、分析方法の概要を理解した後、具体的な事例に基づいて理解する。
受講生への要望	「福祉サービスの組織と経営」について、すでにある程度学修していることを想定して授業を進めていきます。修士論文の作成を念頭に置いたうえで、参考文献を事前及び事後に検討するなど、主体的に授業に参加することを望みます。
評価方法	レポート50%、受講状況・姿勢50%
テキスト・参考書	【テキスト】使用しない予定。基本教材としてプリントを配布する。 【参考書】 宇山勝儀・小林理　編著『社会福祉事業経営論』(光生館) 『新・社会福祉士養成講座11 福祉サーヒスの組織と経営』(中央法規) 『社会福祉士シリーズ11 福祉サーヒスの組織と経営』(弘文堂) 『社会福祉士経営管理論2020』(全社協)

講義科目名称：　社会福祉法制特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
髙野　芳久			
添付ファイル			

学修目標	福祉サービス、社会保障の基礎となる法制度の理解と、利用者等の権利侵害の防止、権利の回復の方法・手段を実践的に研修する。
講義の内容（基本的枠組）	1)社会福祉に関する法制度につき説明できる。 2)利用者等の権利侵害の防止、権利の回復の方法・手段をについて説明できる。
授業計画	第１回　権利擁護概説(権利・社会正義・倫理を含む) 第２回　憲法と人権保障 第３回　意思能力・行為能力・意思表示 第４回　契約(消費者保護制度を含む) 第５回　成年後見制度 第６回　婚姻(DV防止法を含む) 第７回　親子・親権(児童虐待防止法を含む) 第８回　扶養(高齢者虐待防止法を含む) 第９回　行政活動 第１０回　行政救済 第１１回　社会福祉法制概説 第１２回　社会福祉法制に関する判例研究Ⅰ 第１３回　社会福祉法制に関する判例研究Ⅱ 第１４回　成年後見制度に関する判例研究Ⅲ 第１５回　成年後見制度に関する判例研究Ⅳ
受講生への要望	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。 また、別掲の参考書での学習も、お勧めします。授業には演習も含まれるので、討議にも積極的に参加すること。
評価方法	①レポート・試験60%　②発表40%
テキスト・参考書	【テキスト】 ・宇山勝儀・森長秀 編著 「社会福祉を志す人のための法学」光生館, 2011年 ・宇山勝儀・船水浩行 編著 「社会福祉行政論」ミネルヴァ書房, 2010年 ・「社会福祉六法」(最新のもの) 新日本法規 【参考書】 ・講義時にその都度説明する。

講義科目名称：　高齢者福祉特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1，2年	2	選択
担当教員			
山口　智晴			
添付ファイル			

学修目標	高齢者の生活の安定、安心、生きがいなどを支援するための理論と実践について、理解を深める。 具体的には、わが国における社会構造の変化とそれに対応する施策制度の変遷、これからの社会施策のあり方について、各回で設けられたテーマを基に理解を深め、今後の実践や研究に生かすことができることを目指す。 また、本科目を通して高齢福祉療育での研究アイディアを育む力を養うことを目指す。
講義の内容（基本的枠組）	わが国では、長寿を手に入れたが、果たしてその最終ステージは豊かなものなのだろうか。高齢者福祉特論では高齢者福祉について、現代社会の法体系、制度、施策などを学ぶとともに、それらの基本的理念と生活の現実の関係を理解する。そして、事例などによって、理念や法などが現実の生活にどのように活かされているのか、また、その課題について理解を深めていく。
授業計画	第１回　科目オリエンテーション・高齢期の課題について 科目のオリエンテーションを行う。 また、高齢期の課題について議論を通して理解を深める。 教科書①P. 4～7 第２回　人生における高齢期 高齢期における心身の変化・家計の変化・生活不安について、テーマを基に討議を通して理解を深める。 教科書①P. 8～20 第３回　わが国における社会的状況の変遷 わが国における人口動態や社会構造の変遷、世帯状況や家族のあり方、社会とのつながりのあり方の変遷から、支援のあり方について理解を深めていく。 教科書①P. 22～38 第４回　高齢者を支える社会福祉制度の変遷と現状 1980年代、1990年代、2000年以降の高齢者福祉制度の変遷について改めて振り返るとともに、老人福祉法の意義について考える。 教科書①P. 42～53，P. 58～61 第５回　わが国における高齢者福祉制度の変遷と地域包括ケアシステム 第4回で学んだわが国における高齢者福祉制度の変遷を踏まえ、地域包括ケアシステムの仕組みとその意義、課題について考える。 教科書①P. 54～57 第６回　高齢期を支える介護保険制度 介護保険の概要とその趣旨・目的について改めて理解し、現状の介護保険制度における問題点やその対策について理解を深める。 教科書①P. 68～79 第７回　介護保険と介護予防 介護予防の定義を十分に理解した上で、現状の介護予防に関する事業の取り組みやその課題を知り、今後の介護予防のあり方について、討議を通して理解を深める。 教科書①P. 86～87　（配布プリント②P. 103，113） 第８回　自立支援とリハビリテーション 真の自立支援とはなにか、各自の立場から自立について考えて議論する。 また、リハビリテーションの理念を基にして更なる理解を深める。 配布資料 第９回　高齢者における虐待･放任･自己放任に対する支援 高齢者における虐待や放任･自己放任について学び、それらの原因や支援策、予防について考える。 教科書①P. 164～180　（配布プリント：参考図書②P. 80～94） 第１０回　高齢者に対する経済保証制度と医療保障制度 高齢者に対する雇用対策や年金、生活保護、医療制度などの仕組みについて現状の課題と展望を考える。 プリントを配布する（参考図書②P. 60～79） 第１１回　認知症について わが国に限らず世界中で社会的課題となっている認知症について深く学ぶ。具体的には、「認知症」について、医学モデルに限らず、生活モデルや社会モデルからも捉え、そのとらえ方の歴史的変遷も踏まえて学ぶ。 配布プリント 第１２回　認知症の地域生活支援 わが国における認知症の国家戦略である認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）について、学ぶと共にその具体的実践の一つである認知症初期集中支援チームを例に、具体的な地域生活支援のあり方について理解を深める。 配布プリント 第１３回　人生の最終段階における支援 終末期ケアと人生の最終段階における自己決定、その尊重について考える。

	教科書①P.182～196 第１４回　高齢者を支える町づくり 高齢者にとっての生きがいや社会参加の意義も踏まえた、「アクティブエイジング」と「高齢者を支える町づくり」について、自由討議を通してそのあり方について考えを深める。 教科書①P.198～206　（配布プリント：②P.144～152） 第１５回　まとめ 本科目で学んだことを今後どの様に活かしていくべきか、各自の職場や職能などの特性を踏まえ、改めて考える。 配布資料
受講生への要望	これまでの経験を大切にして、話し合い、考え、まとめていく心構えで参加をしてください。 特に授業の教材や文献をよく読んでおくことが必要になります。
評価方法	①課題レポート(60%)、②授業での討論・コメント・授業内課題への取り組み(40%)
テキスト・参考書	テキストは以下の① ①大塩まゆみ・奥西栄介(編著)：高齢者福祉_第3版，ミネルヴァ書房（2018）. 参考書は以下の②以外も、授業の中で随時紹介 ②杉本敏夫・家髙将明（編著）：高齢者福祉論_第2版，ミネルヴァ書房（2018）.

講義科目名称：　児童福祉特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2年次	2	選択
担当教員			
片山　哲也			
添付ファイル			

学修目標	児童福祉の理念はこどもの権利を保障することである。わが国において児童福祉の基本理念は日本国憲法に立脚する。児童福祉法は成立から60年余が経過した。こどもの権利を保障する考え方は戦前と戦後では大きな相違がある。人権に対する基本的概念、こどもの養育に関する考え方には、180度の転換が見られる。欧米の先進諸国の児童福祉についての歴史や理念を参照にしながら、わが国におけるよりよい児童福祉のあり方を研究する。
講義の内容（基本的枠組）	小さく幼いこどもを中心に児童福祉の理論と実践についての歴史を振り返り、世界各国とわが国を比較し、日本の児童福祉の特徴を追及する。現在のわが国における児童福祉の長所は何か。短所は何か。海外において模範にできる事例は何かについて考察する。
授業計画	第１回　自己紹介　児童福祉を要とした乳幼児の人間形成に関するアンケート 第２回　アンケートの結果とわが国における幼いこどもの保育の歩み 第３回　乳幼児の人間形成における世界の歩み 第４回　近代史にみる保育思想史 第５回　ロバート・オーエン　フリードリッヒ・フレーベル　エレン・ケイ 第６回　マリア・モンテッソーリ　Casa dei bambini 第７回　ディベイト 第８回　児童福祉とは何か　児童福祉の理念と歴史　児童福祉の定義　保育と児童福祉 第９回　児童福祉の分野　児童福祉の理念　日本国憲法 第１０回　児童福祉法　児童福祉の理念　児童福祉の法的根拠づけ　保育の理念 第１１回　わが国の見童福祉の歴史　明治期の児童福祉　大正期の児童福祉　昭和期の児童福祉 第１２回　平成期の児童福祉　今日の児童福祉に登場した諸問題 第１３回　家庭環境をめぐる環境の変化　児童の権利擁護 第１４回　こどもに内在する「いのち」を尊重する児童福祉 第１５回　まとめ
受講生への要望	欠席・遅刻は授業時間前に届け出ること。ディベイトや・ミニレポート・発表などを通して自分の研究テーマを自主的に調べる。 講義内容とみずから選んだ課題について常に意識し、与えられた期限内に問題解決を努める。
評価方法	定期試験(50%)　ミニレポート(30%) の提出 自分の意見の発表(20%) で総合的に評価する。
テキスト・参考書	才村　純　編著『保育者のための児童福祉論』樹村房 江島正子著『たのしく育て子どもたち』サンパウロ社 マリア・モンテッソーリ著『モンテッソーリの実践理論ーカルフォルニア・レクチァ』サンパウロ社

講義科目名称：　精神保健特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2年	2	選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
添付ファイル			

学修目標	精神保健福祉に関する基礎的総論的内容について把握した上で、精神保健福祉特有の現状と課題について深める。そしてこれらの課題が精神保健福祉のみならず、ソーシャルワーク全体への般化および応用について考察し深めることを目標とする。
講義の内容（基本的枠組）	精神保健および精神障害のある方を取り巻く状況について、歴史的・全体的にとらえ、日本および欧米諸国における動向をふまえつつ、その延長線上にある現在の精神保健福祉におけるソーシャルワークの実践およびその課題について学び、検討する。また、世界的な潮流としてのリカバリーを軸に、ストレングス、エンパワメント、ピアサポート、ナラティブアプローチなどの新たなアプローチ方法から、アウトリーチやオープンダイアローグ、リカバリーカレッジなどの具体的な方法論について触れながら、日本の今後について検討する。
授業計画	第１回　精神保健福祉の歴史的背景（１） 第２回　精神保健福祉の歴史的背景（２） 第３回　精神障害者福祉における生活支援の現状と課題（１） 第４回　精神障害者福祉における生活支援の現状と課題（２） 第５回　欧米諸国における精神保健福祉の動向（１） 第６回　欧米諸国における精神保健福祉の動向（２） 第７回　精神障害者の対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開① ストレングスとエンパワメント 第８回　精神障害者の対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開② リカバリー 第９回　精神障害者の対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開③ セルフヘルプとピアサポート 第１０回　ソーシャルワークにおける当事者主体 第１１回　プロシューマー萌芽に見るパラダイム転換の可能性① アメリカのプロシューマーの動向と課題 第１２回　プロシューマー萌芽に見るパラダイム転換の可能性② 日本のプロシューマーの動向と課題 第１３回　専門職と当事者の協働① 支援するもの－されるもの（二元論的支援関係）からの脱却 第１４回　専門職と当事者の協働② 循環的支援関係の模索 第１５回　まとめ～受講者の研究関心に引き寄せて～
受講生への要望	自らのこれまでのすべての経験を生かして、ディスカッションに積極的に参加されることを望みます。
評価方法	（１）平常点　30% （２）参加状況およびディスカッション　30% （３）レポート　40%
テキスト・参考書	【参考書】 野中猛「心の病一回復への道」岩波新書　2012 チャールズ・A・ラップ「ストレングスモデル」金剛出版　2017

講義科目名称：　福祉心理特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2年	2	選択
担当教員			
植原　美智子			
添付ファイル			

学修目標	福祉心理学の概要を学ぶとともに、福祉現場で生じる諸問題について、その背景を心理的・社会的観点から理解する。さらに当該領域の研究論文を読み、社会福祉の対象となる人々に対する支援を心理学的観点から考察する。
講義の内容（基本的枠組）	福祉心理学はきわめて新しい学問である。この学問は、社会福祉に関連するテーマをもつ臨床心理学、社会心理学、認知心理学、発達心理学の各領域の知見を活用し、その一方で福祉関連現場における日常的な心理臨床的実践の積み重ねによって、日々新たな福祉心理学として創出され続けている学問と言える。 本講義では、福祉心理学の対象領域である子ども家庭福祉、障害者福祉、高齢者福祉の主要3領域における関連基本概念を紹介する。そのうえで、各領域の福祉の現場において、どのような問題があるのか、問題をどのように理解して実際の支援につなげていくか、心理学的視点から理解を深める。
授業計画	第１回　イントロダクション 第２回　福祉心理学原理 第３回　福祉心理学の歴史と研究方法概論 第４回　福祉心理学的支援の基盤Ⅰ 第５回　福祉心理学的支援の基盤Ⅱ 第６回　子ども家庭福祉領域Ⅰ 第７回　子ども家庭福祉領域Ⅱ 第８回　障害者福祉領域Ⅰ 第９回　障害者福祉領域Ⅱ 第１０回　高齢社福祉領域Ⅰ 第１１回　高齢社福祉領域Ⅱ 第１２回　地域福祉領域Ⅰ 第１３回　地域福祉領域Ⅱ 第１４回　関係行政・機関 第１５回　まとめ
受講生への要望	事前に関連文献を読み、各自が疑問点や検討点をまとめておく。授業では意見交換し、自らの考えを深める。
評価方法	授業内コメント30点、授業内レジュメ30点、レポート40点。
テキスト・参考書	【参考書】 福祉心理学(2021)　日本福祉心理学会　明石書店 福祉心理学(2017)　シリーズ心理学と仕事　太田　信夫（監修）　小畑　文也（編集）　北大路書房 授業内で随時指示

講義科目名称：　福祉サービス市場特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2年次	2	選択
担当教員			
加部　仁			
添付ファイル			

学修目標	2000年の介護保険施行以来、福祉サービス市場における高齢者サービスの供給量は爆発的な増加を見せた。それに伴い供給主体や介護サービス(事業所)の種類も多岐に渡るようになってきていることから、本授業では高齢者介護分野に絞りサービス毎の特徴やその市場性を把握する。また本授業では実際の介護サービス事業者の事例検討や見学訪問を通じて、サービスマーケティングやアカウンティングの視点から、その成功要因を分析し自身の追体験としてインプットする。 その上で、受講者が現在所属する法人および事業所における課題についての対
講義の内容（基本的枠組）	①市場の理解と市場における立ち位置の確認 ②市場理解のための基本的ツールの作成 ③福祉サービス市場におけるサービスラインナップの整理 ④市場の分析手法 ⑤福祉事業の組織と経営 ⑥近年の市場トレンドと課題
授業計画	第１回　福祉サービス市場におけるサービスラインナップの整理 第２回　福祉事業経営の歴史と報酬改定から見る市場の変遷 第３回　SWOT分析、5 force分析 第４回　実際の介護サービス事例検討 第５回　バリューチェーン分析 第６回　実際の介護サービス事例検討 第７回　プロダクトポートフォリオマネジメント 第８回　実際の介護サービス事例検討 第９回　マーケティングの3CとSTP 第１０回　実際の介護サービス事例検討 第１１回　サービスマーケティングミックス 第１２回　実際の介護サービス事例検討 第１３回　福祉事業の組織と経営 第１４回　近年の市場トレンドと課題 第１５回　課題分析の提示
受講生への要望	市場は生き物です。講義だけでは市場を理解することはできません。普段よりの回りの出来事に感覚を研ぎ澄ましておき、興味を持つことが大切です。受け身にならず、授業への主体的な参加を期待します。
評価方法	最終発表40%、レポート60%
テキスト・参考書	【テキスト】 ・各回の授業テーマに基づいた教材を提供します 【参考書】 ・授業内で適宜指示します

講義科目名称：　教育学特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
塚本　忠男			
添付ファイル			

学修目標	・指導方法についての学びを深め、指導者としての実践に生かすことができるようになる。 ・指導方法に関する基礎的概念を習得することができる。 ・発表や討論を経験することにより、表現力をきたえるとともに他者の考えを知り、豊かな発想につなげることができる。
講義の内容（基本的枠組）	本講義では、医療・福祉分野における教育方法について学習する。そして、教育方法の意義と内容を学習・研究し、実践に役立てる。授業の後半は、演習形式で履修者に課題に取り組んでもらう予定である。
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　指導の技術 第３回　指導のデザイン 第４回　指導での目標づくり 第５回　指導者の姿勢と心構え 第６回　体験的学習の意義と課題 第７回　近代教育思想 第８回　教育の原理・方法 第９回　発達と学習心理 第１０回　コミュニケーションの基礎理論 第１１回　指導計画の作成と応用(1) 第１２回　指導計画の作成と応用(2) 第１３回　現場での教育理論の応用(1) 第１４回　現場での教育理論の応用(2) 第１５回　総括
受講生への要望	・意欲的な学習態度であること。 ・指導者としての在り方について、常に意識を持って学生生活を行えること。 ・授業で配布する資料はファイルして保管すること。
評価方法	発表内容(40%) とレポート(60%) で総合的に評価する。
テキスト・参考書	テキストとして必要に応じてプリントを配布する。 参考書は授業内で適宜紹介する。

講義科目名称：　社会調査特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
白石　憲一			
添付ファイル			

学修目標	・統計的考え方の理解。 ・統計分析の手法の習得。 ・データから豊かで実りのある情報を引き出すための技法の習得。 ・データ分析の進め方の習得。 ・統計ソフトの操作の習熟。 ・統計理論の習得。
講義の内容（基本的枠組）	本講座は、数量データの分析をするために、どのような知識や手法が必要となるかを説明する。具体的には、相関係数、カイ2乗検定、t検定、回帰分析の手法を中心に学習していく。授業ではパソコンとデータを用いて、実践形式で学習していく。最後に各自の関心に従って、受講生自らが研究計画を立て、数量データによる統計分析を行っていく。
授業計画	第１回　イントロダクション 第２回　統計分析の進め方 第３回　データの収集と編成 第４回　グラフ表現 第５回　統計ソフトの基本操作 第６回　データのばらつき 第７回　データの操作と比較 第８回　散布図と相関係数 第９回　データの品質 第１０回　クロス集計表と仮説検定 第１１回　平均値の差の検定 第１２回　回帰分析(1) 第１３回　回帰分析（2) 第１４回　統計分析プロジェクト(1) 第１５回　統計分析プロジェクト(2)
受講生への要望	修士論文の作成を念頭に置いたうえで、主体的に授業に参加することが望まれる。
評価方法	授業時課題40%、試験等60%
テキスト・参考書	基本教材として必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。

講義科目名称：　社会福祉経営研究・演習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2	2	必修
担当教員			
稲葉　一洋			
添付ファイル			

学修目標	社会福祉の現代的な機能と文脈、それを踏まえた社会福祉の政策（計画）と、その管理・運営についての理解を深める。そのために講義を行うとともに、受講生によるレポートの作成、教室でのディスカッション、レポート課題の報告等を通じた学習を行うことにより、今日的な社会福祉及び社会福祉経営の視点や考え方の習得を目標とする。
講義の内容（基本的枠組）	①社会福祉の基本枠組（主体・対象・方法）を学ぶ。 ②福祉国家と福祉社会との協働を学ぶ。 ③近年社会福祉政策の動向と福祉課題を学ぶ。 ④地域における社会福祉経営の展開を学ぶ。
授業計画	第１回　オリエンテーション 「社会福祉経営論」「社会福祉の政策（計画）」をキイワードに、本授業のオリエンテーションを行う。 第２回　社会福祉の基本枠組み－主体・対象・方法 社会福祉の基本枠組みを、「社会福祉の主体」「社会福祉の対象」「社会福祉の方法」をキイワードとして理解する。「 第３回　社会福祉の主体－政策・実践・経営 社会福祉の主体を、「政策主体」「実践主体」「準市場」をキイワードとして理解する。 第４回　社会福祉の主体－地域福祉と主体 社会福祉の主体を、「地域福祉」「市町村」「コミュニティ」「ローカルガバナンス」をキイワードとして理解する。 第５回　社会福祉の対象－ニーズ・問題 社会福祉の対象を、「政策対象」「実践対象」「必要（ニーズ）」「生活問題」をキイワードとして理解する。 第６回　社会福祉の対象－社会福祉と地域福祉の対象 社会福祉の対象を、「地域生活課題」「社会福祉法」をキイワードとして理解する。 第７回　社会福祉の方法－方法と政策 社会福祉の方法を、「福祉政策」「ソーシャルワーク」「地域共生社会」をキイワードとして理解する。 第８回　社会福祉の方法－福祉と社会資源 社会福祉の方法を、「社会資源」「フォーマル資源」「インフォーマル資源」「地域福祉計画」をキイワードとして理解する。 第９回　社会福祉の基本枠組みのまとめ 社会福祉の基本枠組みを、「社会福祉の主体」「社会福祉の対象」「社会福祉の方法」をキイワードとして理解する。 第１０回　福祉国家と福祉社会との協働 福祉国家と福祉社会との協働を、「福祉国家」「福祉社会」「福祉多元主義」をキイワードとして理解する。 第１１回　「自助・共助・公助」の概念枠組み① 「自助・共助・公助」の概念枠組みを、「自助」「共助」「公助」「補完性の原理」をキイワードとして理解する。 第１２回　「自助・共助・公助」の概念枠組み② 「自助・共助・公助」の概念枠組みを、「自助」「互助」「共助」「公助」をキイワードとして理解する。 第１３回　「自助・共助・公助」の布置連関① 「自助・共助・公助」の布置連関を、「自助・共助・公助」「家族福祉」をキイワードとして理解する。 第１４回　「自助・共助・公助」の布置連関② 「自助・共助・公助」の布置連関を、「自助・共助・公助」「家族福祉」をキイワードとして理解する。 第１５回　「自助・共助」と「公助」の構図① 「自助・共助」と「公助」の構図を、「相互依存」「集団的自助」「公私二分論」「公共私三分論」をキイワードとして理解する。 第１６回　「自助・共助」と「公助」の構図② 「自助・共助」と「公助」の構図を、「相互依存」「集団的自助」「公助の役割」をキイワードとして理解する。 第１７回　1990年代の福祉制度改革 1990年代の福祉制度改革を、「今後の社会福祉のあり方について」「ゴールドプラン」「福祉関係八法の改正」をキイワードとして理解する。 第１８回　1990年代の地域福祉の展開

		1990年代の地域福祉の展開を、「分権化」「計画化」「社会福祉基礎構造改革」「地方分権一括法」をキイワードとして理解する。
	第１９回	2000年代の社会福祉① 2000年代の社会福祉を、「社会福祉法」「自立支援」「契約（利用）制度」「地域福祉の推進」をキイワードとして理解する。
	第２０回	2000年代の社会福祉② 2000年代の社会福祉を、「地域福祉の停滞」「マクロな生活保障」「ミクロな生活支援」をキイワードとして理解する。
	第２１回	2010年代の社会福祉 2010年代の社会福祉を、「地域共生社会」「介護保険法改正」「新たな時代に対応した福祉提供ビジョン」をキイワードとして理解する。
	第２２回	2017年「社会福祉法」改正① 2017年「社会福祉法」改正を、「地域福祉理念の明確化」「地域生活課題」「包括的支援体制の整備」をキイワードとして理解する。
	第２３回	2017年「社会福祉法」改正② 2017年「社会福祉法」改正を、「地域福祉理念の明確化」「地域生活課題」「包括的な支援体制の整備」をキイワードとして理解する。
	第２４回	2020年「社会福祉法」改正① 2020年「社会福祉法」改正を、「社会福祉法総則」「重層的支援体制整備事業」をキイワードとして理解する。
	第２５回	2020年「社会福祉法」改正② 2020年「社会福祉法」改正を、「社会福祉法総則」「重層的支援体制整備事業」をキイワードとして理解する。
	第２６回	市町村における地域福祉の構築① 市町村における地域福祉の構築を、「市町村地域福祉計画」「住民参加」「総合化」をキイワードとして理解する。
	第２７回	市町村における地域福祉の構築② 市町村における地域福祉の構築を、「行政努力」「住民参加」「協働化」をキイワードとして理解する。
	第２８回	市町村における地域福祉の構築③ 市町村における地域福祉の構築を、「重層的圏域」「協働・連携」をキイワードとして理解委する。
	第２９回	市町村における地域福祉の構築④ 市町村における地域福祉の構築を、実際の取り組み事例から理解する。
	第３０回	本授業のまとめ これまでの授業を振り返って、本授業のまとめを行う。
受講生への要望	授業への積極的な参加と取り組み（授業外学修、レポート作成、主体的な発言）を期待します。	
評価方法	授業への出席・参加・発言（40%）と課題レポート（60%）を目安として総合的に評価します。	
テキスト・参考書	稲葉一洋『新地域福祉の発展と構造』学文社、2016年	

講義科目名称：　福祉事業経営特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
田中 博一			
添付ファイル			

学修目標	従来型の社会福祉施設の経営論は、サービス提供に関する方法論が中心であった。ここから脱却し、福祉事業の経営管理全体を学ぶ必要がある。この授業では、組織の運営管理、リスクマネージメントを中心にしながら経営・管理運営の基本を学ぶ。
講義の内容（基本的枠組）	1. 福祉事業経営の変遷 2. 福祉事業の事業主体 3. 事業組織の管理運営 4. 福祉事業経営とリスクマネジメント 5. 福祉事業経営の課題と将来
授業計画	第１回　福祉サービスにおける組織・経営 第２回　福祉サービスにかかわる組織や団体　①法人 第３回　福祉サービスにかかわる組織や団体　②社会福祉法人 第４回　福祉サービスにかかわる組織や団体　③社会福祉法人改革 第５回　福祉サービスにかかわる組織や団体　④特定非営利法人 第６回　組織と経営の基礎理論　①経営戦略と事業計画 第７回　組織と経営の基礎理論　②組織と管理運営 第８回　組織と経営の基礎理論　③集団の力学とリーダーシップ 第９回　福祉サービスにおけるサービスマネジメント 第１０回　福祉サービスの質の評価 第１１回　苦情対応とリスクマネージメント 第１２回　人事管理と労務管理 第１３回　会計管理と財務管理 第１４回　情報管理と戦略的広報 第１５回　福祉事業経営の課題と将来
受講生への要望	講義形式となるが、より理解を深めるために質疑や議論の展開を期待しています。積極的授業参加・発言をお願いします。
評価方法	授業時のレジュメ・小レポート　30% 期末レポート　70%
テキスト・参考書	テキスト 社会福祉士養成講座編集委員会編『福祉サービスの組織と経営』中央法規 参考文献 『マネジメント』P.F.ドラッカー著　ダイヤモンド社 『チームが機能するとはどういうことか』エイミー・C・エドモンドソン著　英治出版

講義科目名称：　人事労務管理特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2年次	2	選択
担当教員			
森田　隆夫			
添付ファイル			

学修目標	現代社会福祉事業における労務管理の意義を理解するとともに、人事・労務法制、判例等を通じて具体的に思考すること。
講義の内容（基本的枠組）	社会福祉事業の経営管理における人事・労務管理の意義と効用について概観するとともに、これに関わる法制度や理論を法令、通達、判例および事件を通して具体的実務的に研究する。
授業計画	第１回　オリエンテーション 授業の開始にあたって、授業の進め方、成績評価の方法(レポート課題内容の提示)を説明したうえで、授業で検討する判例の取り扱い方法を講義する。 第２回　我が国の社会福祉事業経営の変化と人事業務管理 社会福祉事業における組織の意義、組織原則、組織管理の実際について概説し、討議を行う。 第３回　人事管理の基本的事項の概説 社会福祉事業における人事管理の目的・機能、社会福祉サービスにおける人事管理について概説し、討議を行う。 第４回　労務管理の意義 社会福祉施設における労務管理の意義、職場における人間関係の管理、労務管理に関する法令について概説し、討議を行う。 第５回　労務管理と労務法制 社会福祉施設における労務管理に関する法令について概説し、討議を行う。 第６回　労働契約法のあらましⅠ 労働契約法における総則、労働契約の成立及び変更の各条文につき概説し、討議を行う。 第７回　労働契約法のあらましⅡ 労働契約法における労働契約の継続及び終了、期間の定めのある労働契約の各条文につき概説し、討議を行う。 第８回　労働基準法のあらましⅠ 労働基準法における総則、労働契約の各条文につき概説し、討議を行う。 第９回　労働基準法のあらましⅡ 労働基準法における賃金の各条文につき概説し、討議を行う。 第１０回　労働基準法のあらましⅢ 労働基準法における労働時間、休憩、休日及び年次有給休暇の各条文につき概説し、討議を行う。 第１１回　労働基準法のあらましⅣ 労働基準法における年少者、妊産婦等、就業規則の各条文につき概説し、討議を行う。 第１２回　労働組合法,労働関係調整法のあらまし 労働組合法、労働関係調整法の主要な条文につき概説し、討議を行う。 第１３回　労働関係判例の動向等Ⅰ 労働契約法に関する判例につき概説し、討議を行う。 第１４回　労働関係判例の動向等Ⅱ 労働基準法に関する判例につき概説し、討議を行う。 第１５回　労働関係判例の動向等Ⅲ 労働基準法、労働組合法、労働関係調整法に関する判例につき概説し、討議を行う。
受講生への要望	予習、復習を行うこと。 質問に答えてもらう場合もあるので、特に事前の学習を心掛けて頂きたい。 学部で憲法、社会福祉法制等の授業を受けておくことが望ましい。
評価方法	プレゼン(40%)、提出課題の内容(60%) により判断する。
テキスト・参考書	【テキスト】 ・宇山勝儀・小林理　編著「社会福祉事業経営論」光生館　2011年 【参考書】 ・講義時にその都度説明する。

講義科目名称：　福祉事業経営研究・演習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2年次	2	選択
担当教員			
大竹　勤			
添付ファイル			

学修目標	福祉事業経営における経営と管理について学びを深め、福祉事業経営について主体的に考え行動する知識と技術の獲得を目指す。
講義の内容（基本的枠組）	1. 福祉事業経営の変遷 2. 福祉事業の管理運営 3. サービスの評価と苦情対応 4. 福祉人材の確保と育成 5. 福祉事業経営の課題と将来
授業計画	第１回　福祉事業経営研究の意味 第２回　福祉事業の意義と経営構造 第３回　社会福祉事業の歴史 第４回　社会福祉事業の関連法制度 第５回　社会福祉事業の経営と管理 第６回　社会福祉事業の組織管理 第７回　社会福祉サービスの人事管理 第８回　社会福祉事業の労務管理 第９回　社会福祉事業の財務・会計管理 第１０回　社会福祉事業のサービス管理 第１１回　社会福祉事業の情報管理 第１２回　社会福祉事業の危機・安全管理 第１３回　ステークホルダーマネジメント 第１４回　社会福祉事業経営～まとめ～ 第１５回　最終レポートのテーマと研究方法 第１６回　行政の役割 第１７回　行政の役割・発表と討論 第１８回　事業経営の実態 第１９回　事業経営の実態・調査 第２０回　事業経営の実態・発表と討論 第２１回　就労の実態 第２２回　就労の実態・調査

	第２３回　　就労の実態・発表と討論 第２４回　　退職と人材確保 第２５回　　退職と人材確保・調査 第２６回　　退職と人材確保・発表と討論 第２７回　　リスクマネジメント 第２８回　　リスクマネジメント・調査 第２９回　　リスクマネジメント・発表と討論 第３０回　　福祉事業経営～まとめ
受講生への要望	演習科目であるため、積極的な準備と発言が重要です。
評価方法	演習時のレジュメ・発言等　　20% 中間レポート　　20% 最終レポート　　60%
テキスト・参考書	テキスト 『社会福祉事業経営論』宇山勝儀・小林理　編著　光生館 参考文献 『エイジレスマーケット』デヴィット・B ・ウルフ　中央法規 『福祉を変える経営』小倉昌男著　日経BP 『行動分析学マネジメント』舞田竜宣・杉山尚子　日本経済新聞社

講義科目名称：　地域福祉経営特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
村山　明彦			
添付ファイル			

学修目標	わが国における地域福祉の発展や枠組み、その推進方法と発想についての知見を深め、地域福祉の政策とその管理運営についての理解を深めることを目標とする。
講義の内容（基本的枠組）	教科書および資料を使用して、以下の4つの柱を立て授業を実施する。 1．エビデンスに基づく地域福祉、2．地域包括ケア政策、3．超高齢人口減少社会のまちづくり、4．生涯活躍のまち
授業計画	第１回　オリエンテーション、エビデンスに基づく地域福祉 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 国立社会保障・人口問題研究所ホームページ http://www.ipss.go.jp/ 第２回　地域包括ケアのまちづくり 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp.3-24 第３回　介護保険事業計画と今後のまちづくり 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp.35-48 第４回　在宅医療介護連携推進事業の取り組みの実践と体系 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp.51-69 第５回　フレイル予防の推進：エビデンスから地域のアクションへ① 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp.70-84 第６回　フレイル予防の推進：エビデンスから地域のアクションへ② 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp.112-134 第７回　生涯現役促進地域連携事業の展開 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp.135-146 第８回　生活支援システムの開発と普及方策 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp.146-184 第９回　産官学民協働による新たなまちづくりの展開 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp.187-201 第１０回　データ解析を通したハイリスクアプローチに向けての更なる展開 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp.201-218 第１１回　地域包括ケア政策とコンパクトシティ政策の融合 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp.219-222 第１２回　コンパクトな地域包括ケアのまちづくりのモデル化 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp.223-228 第１３回　地域のネットワークを支える情報システムの構築 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp.229-240 第１４回　生涯活躍のまち（日本版CCRC構想） 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp.241-249 第１５回　生涯活躍のまち（日本版CCRC構想）／まとめ 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 教科書pp.251-253
受講生への要望	教科書の該当ページの内容を把握したうえで、主体的に授業に参加することが望ましい。
評価方法	授業への出席・参加・報告・発言（40%）と課題レポート（60%）を目安として総合的に評価する。
テキスト・参考書	地域包括ケアのまちづくり－老いても安心して住み続けられる地域を目指す総合的な試み－. 東京大学高齢社会総合研究機構 編. 東京大学出版会, 2020. 各回のテーマに関連する資料も事前に配布する。

講義科目名称：　社会福祉行財政特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
松原　直樹			
添付ファイル			

学修目標	社会福祉の大きな流れと我が国の置かれている現状を理解したうえで、国や自治体の抱える社会福祉行政・財政の課題とそれに対する政策の在り方について、具体的な動きや事例を通して考察し、社会福祉行財政に対する自分なりの見方・考え方を身につける。
講義の内容（基本的枠組）	『現代社会福祉行財政論』で挙げられている社会福祉行財政を取り巻く今日的な課題を検討していく。そうした課題を検討していくに際して、自治体や施設における具体例をできる限り取り上げていくこととする。
授業計画	第１回　オリエンテーション、社会保障の現状における課題 少子高齢化社会の進展により、社会保障制度の役割は高まっており、また、社会保障財政への国民全体としての負担が著しく増加している。また、非正規労働者の増大は「格差社会」を進行させることとなった。まずは、こうした状況下での社会保障の現状における課題を取り上げて、その概要を検討する。 第２回　社会保障関係費の国際比較 国際的に福祉国家の性格は変容してきているが、それでも少子高齢化の特徴をもつ欧米諸国と日本、あるいは欧米諸国間では社会保障行財政に異なりがある。各国の特徴と問題点を検討していく。 第３回　公的扶助の課題 格差社会の進行とともに公的扶助をめぐる問題が争点となってきている。生活保護行政をめぐっては、訴訟で争われるケースも多くなっている。公的扶助をめぐる問題と議論について、検討をしていく。 第４回　社会福祉の法体系 社会福祉基礎構造改革・介護保険法施行・後期高齢者医療制度創設及び障害者総合支援法成立という一連の流れの中で形成されてきた社会保障・社会福祉の法体系とその問題について検討する。 第５回　社会保障と社会福祉の財政の体系 戦後の社会保障および社会福祉行財政の展開について概観し、その転換点での課題と施策について、検討する。特に、社会保障に係る財政支出の増大への対応を中心に検討を行う。 第６回　年金保険制度と年金保険財政 年金保険制度の現状について、その経緯に沿って検討する。特に税・社会保障に関する大きな制度改革を引き起こした「基礎年金の国庫負担率2分の1」と被用者年金の「厚生年金への一本化」の経緯を中心に検討する。 第７回　年金保険財政の課題と年金改革 最新の年金改革法と今後の課題について、検討する。ベーシックインカム年金やミニマムペンションなどに関する議論や諸外国の例も参考に検討する。 第８回　介護保険制度改革 2000年の制度施行以来、4度にわたって実施されてきた介護保険の見直し・改革について概観し、それによって生じた影響について検討する。 第９回　介護保険制度の課題 市町村における介護保険制度の現状と課題について、前橋市をはじめとする群馬県の市町村を例として、検討していく。 第１０回　在宅での医療費・介護費の現状と課題 在宅での医療及び介護サービスを利用している高齢者にとって、費用負担は大きな問題であり、また十分なサービス供給にも課題が多い。地域包括ケアシステムの中で、特に医療・介護をめぐる費用の現状とどのようなものであり、またどのような課題が存すのかについて、具体的なモデルを検討していく。 第１１回　少子化社会対応への国際比較 欧米およびアジアの合計特殊出生率をはじめとした少子化に関わるデータを検討した上で日本の現状を理解し、さらに各国の少子化対策について、検討をする。 第１２回　子育て支援対策と課題 子育て支援対策について、予算面から検討する。次に、子ども・子育て新制度により、子育て世代にとってどのような影響があったのかについて、検討する。また、子育てにおける「新しい公共」の役割についても検討する。 第１３回　福祉国家の危機 先進諸国では、福祉に関わる財政負担の増大により、財政危機が叫ばれている。「小さい政府」や「福祉ミックス論」などについての議論もなされている。また、エスピン・アンデルセンによる「福祉国家の3類型」論が議論されている。そうした福祉国家に関する国際的な議論を検討する。 第１４回　「新たな公共」をめぐる課題 従来の国及び地方自治体による福祉行政を補完する「新たな公共」についての議論が提起されている。「指定管理者制度」や「NPO法人」及び「コミュニティ」の役割が求められてきている。国・地方自治体の果たすべき権限との関係で検討していく。

	第１５回　　全体のまとめ 社会福祉行財政の現状についてまとめ、これまで学習した中でも、とくに喫緊の課題としてあげられるものとその対応策について話合い、検討する。
受講生への要望	範囲に指定された部分のテキストを良く読んでおき、不明な点、疑問点は事前に明らかにしておく。各回のテーマに関して、自分なりの検討しておくこと。
評価方法	レポート50%、受講状況・姿勢50%
テキスト・参考書	【テキスト】 使用しない。 【参考書】 坂本忠次『現代社会福祉行財政論』大学教育出版 『福祉行財政と福祉計画』中央法規出版 宇山　勝儀 他・編著『社会福祉行政論(行政・財政・福祉計画)』 ミネルヴァ書房

講義科目名称：　地域福祉計画特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2年次	2	選択
担当教員			
稲葉　一洋			
添付ファイル			

学修目標	地域福祉計画のアウトラインと法的規定についての知見を深めるとともに、国の策定ガイドラインの検討を踏まえ、同計画の事例検討を行うことにより、地域福祉計画をめぐる課題とその管理運営についての理解を深めることを目標とする。
講義の内容（基本的枠組）	１．地域福祉計画のアウトライン ２．市町村地域福祉計画ガイドライン ３．市町村地域福祉計画の事例検討
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　地域福祉計画の意義・目的・主体・過程 第３回　地域福祉計画の系譜 第４回　社会法による地域福祉計画の位置づけ 第５回　2017年「社会福祉法改正」と地域福祉計画 第６回　地域福祉計画ガイドライン（1） 第７回　地域福祉計画ガイドライン（2） 第８回　地域福祉計画ガイドライン（3） 第９回　地域福祉計画ガイドライン（4） 第１０回　地域福祉計画の事例検討（1） 第１１回　地域福祉計画の事例検討（2） 第１２回　地域福祉計画の事例検討（3） 第１３回　地域福祉計画の事例検討（4） 第１４回　地域福祉計画の事例検討（5） 第１５回　地域福祉計画の事例検討（6）／まとめ
受講生への要望	授業への積極的な取り組みと参加（授業外学修・報告・レポート作成）を期待します。
評価方法	授業への出席・参加・報告・発言（40%）と課題レポート（60%）を目安として総合的に評価します。
テキスト・参考書	「地域福祉経営特論」の教科書を必要に応じて活用するほか、資料を配布する。国の地域福祉計画ガイドラインおよび事例検討を行う市町村地域福祉計画については、受講生各自がプリントする。

講義科目名称：　地域福祉経営研究・演習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1･2	2	選択
担当教員			
笹澤　武			
添付ファイル			

学修目標	地域福祉の位置づけ及び地域福祉経営のための基本課題等について、講義、レポート、発表討議及び講評等を通じて学修し、地域福祉経営の視点と考え方を習得することを目標とする。
講義の内容（基本的枠組）	下記授業計画に記載される地域福祉経営に関する主要な基本課題について、導入講義として、大項目に関する講義、「基本講義」と、各論的な「テーマ講義」を随時配するとともに、履修生による「発表と討議」及び「レポート提出」により研究・演習を行う。
授業計画	第１回　基本講義1　「地域福祉への多角的アプローチ」 第２回　基本講義2　「地域福祉の現状と今日的課題」 第３回　テーマ講義①　「地域福祉の主要理論の系譜」 第４回　「地域福祉の主要理論の系譜」の発表 第５回　「地域福祉の主要理論の系譜」の討議・講評 第６回　テーマ講義②　「地域福祉の主体、福祉コミュニティをめぐる論点」 第７回　「地域福祉の主体、福祉コミュニティをめぐる論点」の発表 第８回　「地域福祉の主体、福祉コミュニティをめぐる論点」の討議・講評 第９回　テーマ講義③　「『在宅福祉サービスの戦略』の視点と枠組」 第１０回　「『在宅福祉サービスの戦略』の視点と枠組」の発表 第１１回　「『在宅福祉サービスの戦略』の視点と枠組」の討議・講評 第１２回　テーマ講義④　「社会福祉の機能、資源の地域配置」 第１３回　「社会福祉の機能、資源の地域配置」の発表 第１４回　「社会福祉の機能、資源の地域配置」の討議・講評 第１５回　自由討議、中間のまとめ 第１６回　基本講義3　「地方分権と地域福祉行政」 第１７回　基本講義4　「地域福祉と社会福祉協議会」 第１８回　テーマ講義⑤　「地域福祉計画の系譜と課題」 第１９回　「地域福祉計画の系譜と課題」の発表 第２０回　「地域福祉計画の系譜と課題」の討議・講評 第２１回　テーマ講義⑥　「民間組織による地域福祉推進の課題」 第２２回　「民間組織による地域福祉推進の課題」の発表

	第２３回　　「民間組織による地域福祉推進の課題」の討議・講評 第２４回　　テーマ講義⑦　「コミュニティソーシャルワーク」 第２５回　　「コミュニティソーシャルワーク」の発表 第２６回　　「コミュニティソーシャルワーク」の討議・講評 第２７回　　テーマ講義⑧　「地域福祉ニーズ、その探求方法」 第２８回　　「地域福祉ニーズ、その探求方法」の発表 第２９回　　「地域福祉ニーズ、その探求方法」の討議・講評 第３０回　　自由討議、まとめ
受講生への要望	基本講義及びテーマ講義及び示唆された文献・資料等でレポートを作成し発表するとともに、それに基づいて討論が行えるよう準備すること。
評価方法	レポート提出（70%）・発表（30%）　で総合的に評価する。
テキスト・参考書	【テキスト】 『新・社会福祉士養成講座第9巻地域福祉の理論と方法(第2版)』(中央法規出版、2010年) 【参考書】 日本地域福祉学会編『地域福祉事典』(2006年中央法規出版)。 岡村重夫著『地域福祉論』(光生館、1974年) 大橋謙策『地域福祉』(放送大学教育振興会、1999年) 三浦文夫『増補改訂社会福祉政策研究』(全国社会福祉協議会、1995年)。 『これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告：地域における「新しい支え合い」を求めて－住民と行政の協働による新しい福祉－』（全国社会福祉協議会、20

講義科目名称：　ソーシャルワーク特論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
安留　孝子			
添付ファイル			

学修目標	ソーシャルワークで用いられる専門的な援助理論と方法を学び、実際に福祉現場で具現化出来るようになること。理論モデルに基づく対象把握と実践が行えるようになる。
講義の内容（基本的枠組）	個人・地域・組織の対象レベルにおいて、ソーシャルワークの実践モデルに基づいて、対象の統合的な理解・把握、アセスメントに関する力量の向上に資する講義と演習を行う。更に自身の実践の省察を行う。
授業計画	第１回　イントロダクション 第２回　治療モデル・環境モデル・生活モデル 第３回　ストレングスモデル 第４回　心理的アプローチ 第５回　機能的アプローチ 第６回　問題解決アプローチ 第７回　危機介入アプローチ 第８回　行動変容アプローチ 第９回　エンパワメントアプローチ 第１０回　組織におけるソーシャルワーク 第１１回　組織におけるソーシャルワークに関する演習 第１２回　チームアプローチ 第１３回　地域におけるソーシャルワーク 第１４回　地域におけるソーシャルワークⅠ 第１５回　地域におけるソーシャルワークⅡ
受講生への要望	課題等について可能な限り議論を行うので、主体的に授業に参加することを望む。
評価方法	資料の輪読の発表内容、主体性を持ち新たな視点で積極的に授業に取り組んでいるかで50%評価。 課題レポート内容で50%評価を基本とする。
テキスト・参考書	資料を配布する。参考書は適宜紹介する。

講義科目名称：　ソーシャルワーク特論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
真下　潔			
添付ファイル			

学修目標	1. ソーシャルワークについて学んだ理論等をスキルに結びつける。 2. 事例研究（児童福祉）を主にソーシャルワークの多様性を理解する。 3. ソーシャルワークの実践モデルを研究活動に活かす。 4. 他職種との連携と協働を理解する。
講義の内容（基本的枠組）	1. ソーシャルワークの実践的モデルの分析と展開 2. ソーシャルワークの事例研究(児童福祉) 3. 家庭支援の実際(現代の家族の変容) 4. 多職種連携
授業計画	第１回　イントロダクション・ジョイニング 第２回　テーマの設定と設計 第３回　多職種連携と協働 第４回　事例研究 第５回　相談者への対応 第６回　事例研究 第７回　ケースワークの仕組み 第８回　事例研究 第９回　相談者の環境の特性 第１０回　事例研究 第１１回　親と子を取り巻く社会の状況 第１２回　事例研究 第１３回　「家族」を考える 第１４回　事例研究 第１５回　授業の総括
受講生への要望	積極的な意見発言を望む。そのために、課題に沿った文献をリストアップし、読めるようにすること。
評価方法	1. 授業への積極的参加と発言等取り組み30% 2.. レポート70%
テキスト・参考書	テキストは特になし。講義のなかで補完していく。 これまでのテキストを活用したい。

講義科目名称：　ケアマネジメント特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
白石　憲一			
添付ファイル			

学修目標	老い、病、心身の障害等を担っている人々の生活課題について、国家はそれらの人々が幸せを求め、人間に値する生活が保障されるよう法制度による生活支援の施策を講じている。ケアマネジメントは、その制度・施策が法の理念に即して適時・適切に行われるための社会的意義と方法について学ぶ。そしてケアマネジメントの価値・知識・技術を身につける。
講義の内容（基本的枠組）	(1) ケアマネジメントの社会的存在の意義と役割について学ぶ。 (2) ケアマネジメントにおける生活支援の意義と実践について学ぶ。 (3) ケアマネジメントの展開過程について学ぶ。 (4) 事例演習によって、ケアマネジメントの実践能力を身につける。
授業計画	第１回　ケアマネジメントの現代社会における意義と機能について 第２回　ケアマネジメントにおける人間の尊厳と自立等について 第３回　ケアマネジメントにおける自立支援について 第４回　ケアマネジメントにおける価値と倫理について 第５回　ケアマネジメントの展開過程の全体構造について 第６回　ケアマネジメントの計画について (1) 第７回　ケアマネジメントの計画について (2) 第８回　ICF (国際生活機能分類)とケアマネジメントについて(1) 第９回　ICF (国際生活機能分類)とケアマネジメントについて (2) 第１０回　事例演習(1) 第１１回　事例演習(2) 第１２回　事例演習(3) 第１３回　ケアマネジメントの専門性について 第１４回　ケアマネジャーの資質及び向上について 第１５回　まとめ
受講生への要望	これまでの経験を大切にして、話し合い、考え、探求していく態度が求められます。
評価方法	授業時課題：50%、レポート：50%として総合評価する。
テキスト・参考書	【テキスト】 「生活支援学の構想」黒澤貞夫．川島書店 「ICFを取り入れた介護過程の展開」黒澤貞夫編著．建帛社 【参考書】 「介護福祉の専門性を問い直す」黒澤貞夫著．中央法規出版

講義科目名称：　ソーシャルワーク研究・演習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2年次	2	選択
担当教員			
土屋　昭雄			
添付ファイル			

学修目標	1ソーシャルワーク特論で学んだことをさらに広く深く学ぶ。 2ソーシャルワーク研究方法についてさらに広く深く学ぶ。 3ソーシャルワーク研究に関する論文の読解と研究。
講義の内容（基本的枠組）	ソーシャルワーク特論、ソーシャルワーク研究方法で学ぶ内容を深く理解するために、ソーシャルワーク研究に関わる文献、各自の関心に応じた関係文献を読み研究する。
授業計画	第１回　イントロダクション(研究テーマと研究方法) 第２回　ソーシャルワークの基盤と専門職 第３回　ソーシャルワークの理論と方法 第４回　ソーシャルワークの研究課題と評価 第５回　地域を基盤としたソーシャルワーク 第６回　個と地域の一体的支援 第７回　ネットワークの活用とソーシャルワーク 第８回　事例研究 第９回　レポートによる発表、討議等 第１０回　事例研究 第１１回　レポートによる発表、討議等 第１２回　事例研究 第１３回　レポートによる発表、討議等 第１４回　事例研究 第１５回　レポートによる発表、討議等 第１６回　事例研究 第１７回　レポートによる発表、討議等 第１８回　事例研究 第１９回　レポートによる発表、討議等 第２０回　事例研究 第２１回　レポートによる発表、討議等 第２２回　事例研究

	第２３回　　レポートによる発表、討議等 第２４回　　事例研究 第２５回　　レポートによる発表、討議等 第２６回　　事例研究 第２７回　　レポートによる発表、討議等 第２８回　　事例研究 第２９回　　レポートによる発表、討議等 第３０回　　自由討議・まとめ
受講生への要望	この授業は、ゼミ形式で進めるので、十分事前準備をして授業に出席すること。 事例については、高齢者、障害者、児童、災害、権利擁護、地域福祉、生活困窮、多機関・多職種連携等から受講生の関心及び研究テーマ等により協議しながら進める。
評価方法	プレゼン30%、授業内での発言20%、レポート50%で総合的に評価する。
テキスト・参考書	基本教材として、必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。 各自が報告する論文等は各自で用意する。

講義科目名称：　健康福祉学研究方法特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
巴山　玉蓮			
添付ファイル			

学修目標	１．健康福祉学・看護学教育に関連する研究の動向を理解する ２．健康福祉学・看護学教育に関連する研究成果を産出するための研究方法を理解する ３．健康福祉学・看護学教育に関連する学術用語、研究デザイン、データ収集、分析方法、研究倫理に関する基礎 知識を学修する ４．演習を通して、研究批評の視点について理解する
講義の内容（基本的枠組）	健康福祉学研究方法特論の学修を通し、学生は、健康福祉学・看護学教育方法に関連する研究成果を産出するための基礎知識として研究方法を学修する。具体的には、質的研究方法論、量的研究方法論の特徴及び学術用語、研究デザイン、データ収集、分析方法、研究倫理などについて学修する。学修内容の定着を促進するために演習を通して、学修内容の発表や討論、研究批評の視点について理解する。
授業計画	第1回　ガイダンス、 研究分野に関する研究の動向1) 第2回　研究分野に関する研究の動向2) 第3回　研究成果を産出するための研究方法１）　・質的研究 第4回　研究成果を産出するための研究方法２）　・量的研究 第5回　研究における倫理 第6回　量的研究デザイン 第7回　質的研究デザイン 第8回　標本抽出、 測定の概念 第9回　データ収集と解析、統計解析１）変数を記述 第10回　データ収集と解析、統計解析２）関係性の検討、予測、差を決定 第11回　研究結果の解釈 第12回　研究計画書の作成１） 第13回　研究計画書の作成２）、研究論文批評（クリティーク）１） 第14回　研究論文批評（クリティーク）２） 第15回　研究成果を産出するための課題 、まとめ
受講生への要望	自身の研究課題及び研究方法について検討しておく。 事前課題を行って授業に臨み、積極的にディスカッションに参加する。
評価方法	プレゼンテーション、ディスカッション：40%、最終レポート：60%
テキスト・参考書	・『バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版 ―評価・統合・エビデンスの生成 第7版、 エルゼビア・ジャパン

講義科目名称：　健康福祉学教育研究方法特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
小野　智佐子			
添付ファイル			

学修目標	看護教育課程（カリキュラム）の編成及び教育内容、教授の構成、評価に必要な基本的考え方と方法論を修得する。
講義の内容（基本的枠組）	・看護教育における研究の動向、研究方法の開発等について探索する。 ・看護教育課程の編成及び教授案作成に関する基礎的知識を理解する。 ・評価過程の概要及び教育課程の評価方法の検討を行う。 ・選択した領域の講義または実習についての指導計画を立案し、模擬授業を実施する。
授業計画	第１回　科目ガイダンス ・本科目の目的・目標、授業内容、評価等、シラバスについて理解する ・わが国の健康福祉学・看護教育研究の現状を理解する。 第２回　看護学教育研究の動向 ・わが国の健康福祉学・看護学教育の歴史的変遷と研究動向を理解する。 第３回　看護学教育課程編成の基礎（１）カリキュラム編成の知識・考え方 ・看護学教育における教育課程編成の基礎的知識を得る。 ・看護学教育に関する関係法規について理解する。 第４回　カリキュラム・プログラムデザイン（１）教育課程 ・教育課程（カリキュラム）の基礎的知識及び、カリキュラム立案の一連の過程を理解する。 ・カリキュラムマップ及びカリキュラムの要素について理解する。 第５回　カリキュラム・プログラムデザイン（2）シラバスの設計 ・シラバス（授業計画書）の目的及び基本設計について理解する。 第６回　カリキュラム・プログラムデザイン（3）授業設計 ・授業設計の意義及び授業案作成までの一連の過程を理解する。 第７回　カリキュラム・プログラムデザイン（4）学習方略 ・カリキュラムにおける学習方略について理解する。 （学習方略の種類：講義・演習・実習・グループワーク・ディベート・ロールプレイなど） ・教育資源の活用について理解する。 第８回　カリキュラム・プログラムデザイン（5）授業の展開 ・授業の展開方法について理解する。 第９回　教育評価の概要 ・教育成果の評価の考え方及び評価方法について理解する。 第10回　看護学実習を指導するための基礎知識（１）実習指導の基本 ・看護学教育における看護学実習（臨地実習）の意義、実習の目的・目標及び実習施設・臨地実習指導者との連携について理解する。 第11回　看護学実習を指導するための基礎知識（２）実習指導案 ・実習指導案の作成に関する基礎的知識を得る。 ・実習での指導方法について理解する。 第12回　教授指導案の作成（１） ・選択した看護学領域の指導計画案及び教授指導案を作成する。 第13回　教授指導案の作成（２） ・選択した看護学領域の指導計画案及び教授指導案を作成する。 第14回　模擬授業の準備 ・選択した看護学領域で作成した教授指導案に基づき、模擬授業の準備をする。 第15回　模擬授業の実施　　総括 ・選択した看護学領域で作成した教授指導案に基づき、模擬授業を実施し評価する。 ・看護教育教授方法に関する自己課題を明確にする。

受講生への要望	・指導計画及び教授案作成にあたっては、希望する看護領域を選択して行う。 ・指導日については、適宜調整する可能性がある。
評価方法	授業課題（学習成果物）70%、プレゼンテーション（模擬授業含む）30%
テキスト・参考書	適宜提示する。

講義科目名称：　地域看護研究・演習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2年	2	選択
担当教員			
奥野　みどり			
添付ファイル			

学修目標	1) 地域看護の高度な実践力の修得 (1) 地域看護の実態把握と課題を明らかにし、看護活動改善のための評価方法と改善に向けた検討ができる。 (2) 看護専門職者として地域で生活する人々への多様な看護実践の方法を修得できる。 (3) チームケアにおいてコーディネートを行い、リーダー的役割を果たすことができる。 2) 地域看護の研究法の修得 (1) 地域看護の国内外の研究動向と社会問題・社会ニーズを把握し、課題の解決・改善に向けた検討ができる。 (2) 地域看護の研究テーマと研究方法を具体化させるプロセスを理解し、研究者としての倫理に基づく研究能力及び情報活用能力を養う。
講義の内容（基本的枠組）	本科目では、地域看護の多様な看護実践力の向上をめざし、地域看護の研究と実践力強化のために、地域看護の概念、理論、動向、現状について理解をする。その上で、地域看護研究の動向、研究方法について学修する。 地域包括システムに関連する実践例を用いた演習を通して、地域で生活する人々への多様な看護ができる専門職者として、実践力強化、相談、指導、コーディネート、倫理的課題の調整（情報リテラシー含む）について学修する。
授業計画	第１回　ガイダンス ・科目ガイダンスにおいて、科目の特徴及び学習方法、評価等について説明する。 第２回　研究分野に関する研究の動向(1) ・研究分野(小児看護学、小児在宅看護含む)に関する研究の動向について概説する。 ・地域看護の概念･取り巻く社会背景･地域包括ケアシステムについて考察する。 第３回　研究分野に関する研究の動向（2） ・研究倫理及び看護研究に関する倫理について概説する。 ・研究者及び看護専門職者としての倫理、人権擁護についてディスカッションする。 第４回　地域看護研究で求められる研究倫理 ・看護学研究における研究倫理審査について概説する。 ・科学研究費申請等について説明する。 第５回　研究論文のクリティーク（1）演習 ・地域看護研究論文のクリティークを実際に行い、研究論文のクリティーク（批判的な読み方）及びクリティカルシンキング（批判的思考）、論理的思考力を伸ばすための方策についてディスカッションする。 第６回　研究論文のクリティーク（2）　演習 ・地域看護研究論文のクリティークを実際に行い、研究論文のクリティーク（批判的な読み方）及びクリティカルシンキング（批判的思考）、論理的思考力を伸ばすための方策についてディスカッションする。 第７回　研究論文のクリティーク（3）演習 ・各自の研究テーマに関連する論文（原著論文）のクリティークを行う（発表準備）。 第８回　研究論文のクリティーク（4）演習 ・各自の研究テーマに関連する論文（原著論文）のクリティークを発表し、研究論文のクリティーク（批判的な読み方）及びクリティカルシンキング（批判的思考）、論理的思考力を伸ばすための方策についてディスカッションする。 第９回　地域看護研究の基礎（1） ・地域看護研究における調査方法、データの収集方法について解説する。 第１０回　地域看護研究の基礎（2）演習 ・地域看護研究の特徴及び研究方法についてディスカッションする。 第１１回　地域看護研究の基礎（3）演習 ・地域看護研究における事例について検討する。 第１２回　地域看護研究の基礎（4）演習 ・地域看護研究における事例についてディスカッションする。

	第１３回　家族介入プログラム開発と評価（1） ・家族介入プログラム開発研究のプロセスと研究計画について解説する。 第１４回　家族介入プログラム開発と評価（2） ・家族介入プログラムの作成プロセスと評価について解説する。 第１５回　地域看護研究における情報リテラシー（1） ・地域看護に関連する社会問題及び課題について情報を収集し、ディスカッションする。 第１６回　地域看護研究における情報リテラシー（2）演習 ・地域看護に関連する社会問題（事例）を取り上げ、ディスカッションする。 第１７回　地域看護研究における情報リテラシー（3）演習 ・地域看護に関連する社会問題（事例）を取り上げ、ディスカッションする。 第１８回　地域看護研究における情報リテラシー（4）演習 ・地域看護に関連する社会問題及び課題についてディスカッションする。 第１９回　地域看護研究における情報リテラシー（5）演習 ・地域看護に関連する社会問題と課題についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションする。 第２０回　地域看護研究における情報リテラシー（6）演習 ・地域看護に関連する社会問題と課題についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションする。 第２１回　地域包括ケアシステムの歴史と現在の社会的ニーズ① 地域包括ケアシステムの歴史と多様化する社会的ニーズの現状から求められる地域包括ケアシステムについて概説する。理想と考えるシステムについてディスカッションして地域包括ケアの必要性と課題を具現化する。 第２２回　地域包括ケアシステムの歴史と現在の社会的ニーズ② 地域包括ケアシステムの歴史と多様化する社会的ニーズの現状から求められる地域包括ケアシステムについて概説する。理想と考えるシステムについてディスカッションして地域包括ケアの必要性と課題を具現化する。 第２３回　地域社会福祉の基本理念と地域包括ケアシステムの概念 地域包括ケアシステムの基本理念と地域福祉の考え方、地域生活を支える保健・医療・福祉サービスの役割を概説し、多職種協働の現状の課題についてディスカッションする。 第２４回　地域包括ケアシステムにおける看護の役割意義 地域における保健・医療・福祉サービスと地域看護の活動、看護職の役割について概説する。在宅医療の視点から看護の役割機能についてディスカッションする。 第２５回　地域包括ケアシステム① 医療と福祉・看護の歴史的背景と疾病特性について理解し、障がい者の地域移行支援の困難となる要因と課題についてディスカッションする。 第２６回　地域包括ケアシステム② 保健・医療・福祉の連携と多様な疾患に対応できる医療体制、また、協働支援の在り方についてディスカッションする。 第２７回　地域包括ケアシステムの構築プロセス① その人らしく生活できるための保健・医療・福祉の連携と現在注目されているアプローチ方法について概説する。多職種協働の在り方についてディスカッションする。 第２８回　地域包括ケアシステムの構築プロセス②演習 その人らしく生活できるための保健・医療・福祉の連携と現在注目されているアプローチ方法及び多職種協働の在り方についてディスカッションする。 第２９回　地域包括ケアシステムの実践（事例） 健康障害をもつ者に対応した地域包括ケアシステム」の構築を推進するドキュメンタリー映像を視聴し長期入院患者が地域で暮らしている実際から支援の在り方を考える。 第３０回　まとめ・演習 関心のある対象を設定して、その人らしく地域生活ができる支援を構成しディスカッションする。
受講生への要望	事前に準備を十分にした上で講義に参加すること。
評価方法	授業時のレポート:80%　プレゼンテーション:20%
テキスト・参考書	授業内で適宜指導する。